ALL WAYS

オールウェイズ

下

開高 健

1985~1989

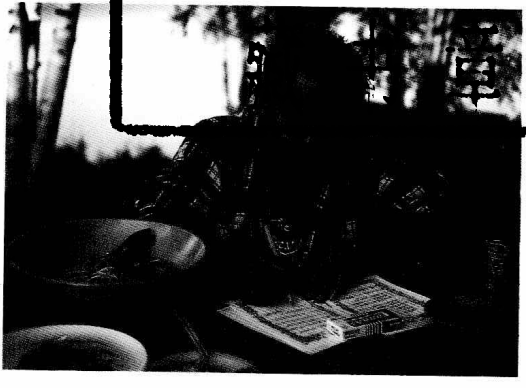
角川書店

ALL WAYS

オールウェイズ

下

阜阳师范学院图书馆



角川書店

ALL WAYS 下
オール ウェイズ

平成2年10月31日初版発行
平成2年11月15日再版発行

著　者　開高　健
発行者　角川春樹
発行所　株式会社角川書店
東京都千代田区富士見2-13-3
〒102　振替 東京3-195208
電話／営業部03-817-8521
編集部03-817-8451
印刷所　旭印刷株式会社
製本所　株式会社鈴木製本所

落丁・乱丁本はお取替えいたします。
Printed in Japan
ISBN4-04-883266-2　C0095

オールウェイズ

単行本未収録全エッセイ

下

1985~1989

開高 健

谷沢永一・浦西和彦 編

装丁　山口昌弘

写真　高橋　舜

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目次

生死ヲ問ワズ――11
遊びをせむとや生れけむ――13
観察は他流試合をなすが如し――33
一瞥と無視――53
バベルの塔の影――55
終リ善ケレバ……――58
北の、小さな国の、明澄――60
風を追え！　PART 1――68
風を追え！　PART 2――75
裸の瞬間を追って……――81
焼き肉を知らずしてグルメを名のるなかれ――85
死体を見ずに生を語るなかれ――86
最後の開拓地にて――98
馬を走らせてか馬をおりてか？……――102
天才が……――106
コケ？　ガン？――111

マニャーナの国で——113
固有なるもの——124
行くカネ来るカネ——126
事物の力——134
諸能力の均等発達——136
われらの獲物は、一滴の光り——138
微笑しつつ拒否する——139
酒（ウイスキー）に訊け——141
作文ではなく作品を——153
あとがき『友よ、さらば〈弔辞大全I〉』——155
あとがき『神とともに行け〈弔辞大全II〉』——157
茶化すな——159
香水を飲む——163
一触れごとの歳月——167
パイパンのモーパイ——170
開高健のモンゴル大紀行——172
いずれも次作を——175
イトウには溲瓶（しびん）のワインが似合う!?——177
水泳はエロティックなスポーツや。——178
はじめに——190

優雅な秋日を——191
映画「プラトーン」を観る——193
私の三冊——201
ミステリーの面白さを語ろう——202
なつかしい風景 心安まる自然 日本人ならではの風景——214
解説『船キチの記』——215
開高健の、ムール貝・市場(マルシェ)風喰らい方。——222
受賞の言葉——224
構えのない構え——225
開高健一字萬金大辞典——229
ワインは究極の酒なり——236
開高健流デカンタージュ——239
開高健流テースティング——241
諸君、飲めるうちに飲みたまえ!——243
小説家の〝休暇〟——245
体の栄養と心の栄養——250
御先祖様、萬歳!——264
極意はマイペース——266
ボラフラたちの味覚——269
晝夜を舎(お)かず——276

わが想い出の名画たち——280
知ル者ハ言ワズ——282
ふたりで濡れようじゃないの。——284
端正と明朗——287
瓶の中のあらし——289
水準が飛躍した——292
やっぱり、手仕事だ——294
蛇の足として——296
『Seven Seas』宣伝コピー——306
地球を遊ぶ。
　めずらしい食べもの——307
　チャイナタウン——323
　宝石、最後の買い物——334
　男の気品とユーモア——351
　フィッシング［Photo Essay］——357
アマゾン——365
★創刊一周年——372
長良川は手つかずのまま残せ——373
心の故郷喪失者——381
人民起来了!?（人民は立ちあがった）——382

天井のシンプル・ライフ――384
E・ヘミングウェイの遺作『エデンの園』を語る――388
何もかもとられちゃった――396
祝杯を三度、四度――401
花はどこへ？……――403
「東京と、かわらん」パリは変わった――408
ニューヨークは滅びない――410
ホテルで、人の顔見て短編を作る――412
書く時飲む酒　50度ウオッカ――414
出色の作です――416
『輝ける闇』――418
受賞作ナシ――420
★Dear Readers――422
『Seven Seas』――430
ゴルバン・ゴル　三つの河――432
チンギス・ハーン陵墓をめぐって若干の問答の試み――436
悠々として急げ――443
編集者マグナ・カルタ九章――445
本好き人好き話好き　谷沢永一――446

編集付記

浦西和彦

★印のタイトルは編集部が付けたものです。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ALLWAYS

下

生死ヲ問ワズ——第3回サントリー・ミステリー大賞選評

今回の受賞作となった作品の作者はすでに彼岸の人となっていらっしゃると、あとになってわかったが、だといって判定にはまったく影は落ちない。彼岸も此岸も関係ない。この賞の応募規程の一つにプロもアマも、有名も無名も問わないというのがあるが、もう一つ、生死ヲ問ワズという一項を追加してもよろしいかと思われる。

この人は関西方面のTVドラマのプロのライターだと聞かされたが、さすがにメリとハリがきいていて、手練れた文体には不安がない。人物描写もよく細部がおさえてあり、ユーモアにイヤ味がない。古風で地味な作風だけれど、最後まで読ませるものがある。しかし、マイナス点がないわけではない。迷宮入りになった事件が四十年後にドンデン返しになり、犯人が自殺するという段取り。このあたりがにわかにバタバタと浮足立つという弱さ。説得力がいささか稀薄になる。語ってはおられるけれど、うなずくのにはちょっと小首をかしげたくなる。そこが残念といえば残念な点である。

昨年の選評に感想として書いたと思うけれど、ミステリー作品にはよい意味でのディレッタンティズムが発揮されることをのぞみたい。すれっからしの読者をだましだましお話作りの熱さと謀意の冷徹をないまぜて余技としての巧智に日頃と多年の素養なり識見なりを織りこんでいく。この愉しみはよきものである。おそらく今後ますます熟年か窓ぎわのお年頃の人物が応募してくることと思われるが、ヤング・パワーともども大歓迎である。チェスタートンは逆説を正説にしてみせる心

のトリックのみごとな名手であったが、プロになって注文に追われるようになるとやっぱり凡打の連続となった。名声はこれほどの人物でも砕いてしまうかと痛感させられたことがあるが、業余として、趣味としての想像力のたわむれにはそういうことは起るまいから、今後この賞には期待したい。紙の中で人殺しをあれこれ考えることで生活反応が活潑となり、結果として長生きする。そんな生きかたはシャレたもんですよ。

〔『オール読物』40巻6号　昭和60年6月1日〕

（注　第3回サントリー・ミステリー大賞受賞作「名なし鳥飛んだ」　土井行夫）

遊びをせむとや生れけむ——大放談

人間は思考する動物である。そういう考え方からすれば、ホモ・サピエンス。いや人間が他の動物と違うのは、第一に手を使い、道具を使うことだ、という定義のしかたからすると、ホモ・ファーベル。そして、人間の特質は遊ぶということにある、人間のやることなすことすべてに、遊びがあるという見方でいくと、ホモ・ルーデンスということになるわけでしょう。

昨今はこのホモが大はやりで、ホモ時代なんだけれども、ホモ・ルーデンスが最後かと思っていたら、ホモ・モーベンスという説が出て来た。いかなる動物よりも、人間は一生かかって移動する距離が長い。多様多彩である。ビジネスであれ、物見遊山であれ、冒険であれ、倦怠からくるものであれ、何であれ人間は移動せずにいられない。移動することに人間の特質があるんだというのが、ホモ・モーベンス。こういうふうに数えていくと、まだまだホモは無限にあるやろね。だが、どの定義も必要条件はみたしているけれども、十分条件はみたしていない。人間性を定義しようとすると、必ず定義から漏れ落ちるのが次に出てくるということでしょうな。

遊びという面から見て、おもしろいと思うのはやっぱり外国人に多いね。

たとえばキャンピング・カーというのがあるやろ。モーター・コーチ、つまりエンジンのついた駅馬車といういい方もあるし、ヴァケーション・カーという呼び方もある。要するにこれは、トイレ、バス、キッチン、バールーム、洋服戸棚、テーブル、テレビ等々、全部完備している。私も二、三度乗ったことがあるけれども、なかなかよくできているのよ。アメリカ人の発明だが、遊ぶこと

にかけちゃ、アメリカ人はすばらしい知恵と工夫を発揮しますね。

ちょっとおもしろいことがある。アメリカの東海岸一帯にたくさんの港があり、漁港にもなっているんだけれども、冷凍庫の施設のある港が一つもないというんだね。そしてアメリカの漁船は世界で最も遅れている。ヨットとかカジキ釣りのクルーザーとか、遊びのための船となると世界最高、漁船は世界最低なんだ。これはアメリカ人の食生活を語るものだろうけどね。彼らはまだ圧倒的に肉を食うているわけや、ビーフ・イーターやからね。ところが自動車となると、ご承知のようにこれはもう徹底的に発達している。

キャンピング・カーを走らすということから見れば、南米の最南端ティエラ・デル・フェゴから、アラスカのフェアバンクスまで、中南米でゲリラや山賊に誘拐されたりするという危険をのぞいたら、一気通貫で走り抜けることができる。恐るべき時代なんだ、こういうことは人類史上なかったね。

その全行程が何キロぐらいになるかな。私が行ったときは、アラスカから出発して南下の一途を辿って、中米はパス（ものすごい戦争してたからね、いまもしているけど）、南米は太平洋岸を下りていって、アンデスを越えてアルゼンチンのパンパスを抜けて、走行距離五万二三四〇キロか。自動車で九か月かかった。

●道端で野垂れ死にするんだと、
老人は気迫をこめて淡々と語ったね。

人類はいまやホモ・モーベンスでありホモ・ルーデンスである。かくて、どういうことが起るかというと、一生セコセコ働いてつつましく金を貯めた者が、家から庭から全部売ってしまって、一台のキャンピング・カーにしてしまう。男だけじゃなく、カアちゃんがまたしっかりしたモーベン

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com